



夏 季 休 暇 を 活 用

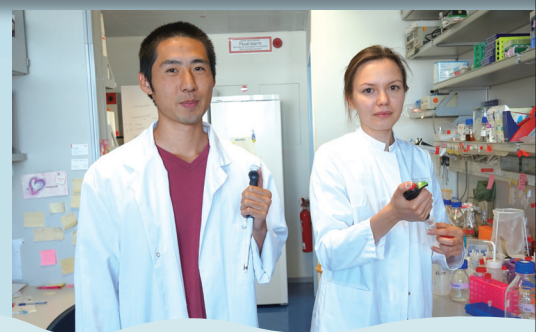
さらに この短期留学修了者は春季に
**超一流大学で
ステップアップ!!**
(詳細は裏面をご覧ください)

米国ジョージア工科大学 短期留学生募集

アメリカ留学
予定期間

2020年8月9日~9月20日

ジョージア工科大学のキャンパス風景



詳細は、裏面の募集要項および、中谷財団ウェブサイトをご参照ください。

<http://nkries.jp/2020>



Point

1

ジョージア工科大学※

※世界大学ランキング工科分野で世界7位。

研究室の一員として研究活動

Point

2

アカデミックカレンダーを配慮した日程

Point

3

必要費用の大部分を財団より支給



Research & International Experiences for Students

信 NAKATANI RIES 2020

国際学生交流プログラム

理系学部生短期留学

海外の大学への短期留学を通じ、最先端の研究と生活文化を体験するプログラムの夏季インターンシップ“Nakatani RIES 2020”参加者を募集します。米国ジョージア工科大学の夏季研修生として、研究室に所属してリサーチを体験します。修了者は春季インターンシップであるアドバンスプログラムに応募可能です。

募集期間
(予定)

2019年 2020年
12月26日～3月1日

留学期間
(予定)

2020年
8月9日～9月20日

対象者

10名程度 日本の大学の理系学部所属する1年生～3年生(応募時点)
特に1年生、2年生(留学時点で2年生、3年生)の積極的な参加を期待します。

条件

- ① 日本国籍または永住権を有すること。
- ② 英語環境下でリサーチインターンシップを行うに必要な英語力。
2年以内の有効なOPIcスコアを持っていない場合、3月初旬までにOPIcを受験してください。費用は財団で負担します。詳細は応募受付時に連絡します。

2020年5月23日、24日に事前オリエンテーション、9月末または10月初めの週末に成果発表会を行います。留学期間も含め、すべて出席必須です。

プログラム内容

- 渡航前オリエンテーション(国内)
 - ジョージア工科大学におけるオリエンテーション
 - ジョージア工科大学の研究室におけるリサーチインターンシップ
 - 帰国発表会(国内)
- ▷以上を含め、当財団が指定する全日程に参加することが条件です。

助成内容

- 研修費用(日本、米国) ● 渡航費ならびに国内外の移動費
 - 滞在費 ● 食費(一部) ● 留学旅行保険代 ほか
- ▷パスポート取得費用、通信費、観光費等の個人的費用は本人負担

申込方法

下記URLより、詳細を確認、My Pageを取得し申請ください。

<http://nkries.jp/2020>



提出書類

成績証明書(英文)・履歴書(英文)・英文Essay(最大2500文字)3編

結果発表

2020年5月下旬 助成対象として採用された場合、本人に直接通知し、詳細は別途お知らせします。

Attention!

アドバンスプログラムについて
[春季インターンシッププログラム]

夏季プログラムでの経験に基づき、自らの力で、より本格的な研究活動を米国の大学※で体験する春季の短期留学です。

※財団の指定する研究室が対象。2019年春は
Harvard大学(物理)・Yale大学(化学)・Georgia Tech・UC Davis(バイオ)の4研究室。

お問い合わせはHPからお願いします。

<https://www.nakatani-foundation.jp/>



公益財団法人
中谷医工計測技術振興財団

本 部 : 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー8階
神戸分室 : 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通一丁目5番1号 国際健康開発センタービル(IHDビル)5階

「信」は、中谷RIESフェローシッププログラムのシンボルとして、「信頼」「信用」「自信」「音信」などの想いを表現しています。

参加学生
の声

博士課程に進む計画が
具体的になりました。

東京工業大学 工学院機械系(3年) 萩原 春妃さん

独カールスルーエ工科大学で核磁気共鳴で使用するデバイス改良を研究しました。初めての研究活動でしたがメンターもラボの学生も親しみやすく、すぐに相談でき助かりました。JP Fellowsと話す機会に恵まれ、普段の活動を聞く度に「私も負けない。」と強く思いました。渡航前は博士課程で海外大学へ進学することをぼんやりと考えていましたが、この留学で博士課程に進む過程を知り、計画を立てることができました。プログラムを最後までやりぬいたという自らの自信と、多様な個性のJP Fellowsから刺激を受けたことによるものだと思感しています。

※2019年はドイツで実施、2020年は米国実施となります。

